

富士竹類植物園で、地元作家による初めての現代美術作品展示
園内の竹を使用した企画展開催

二村有音「大地が一つ息をすると 竹が一本生まれる」

富士竹類植物園(静岡県 駿東郡長泉町)は、2023年6月より研究資料館にて企画展を開催いたします。園内の研究資料館の一角を使ったインスタレーション(展示空間を含めて作品とみなす手法)作品で、園内の竹、蔓や和紙などの自然素材と、竹でできたプロジェクターで投影した画像を組み合わせたダイナミックな新作です。三島市在住の現代美術作家・二村有音が園内で取材したイメージから生み出されました。



「大地が一つ息をすると 竹が一本生まれる」(2023年) 作品部分
竹、植物の蔓、和紙、エンコスティック、竹の小型プロジェクター

【開催概要】

展覧会名：富士竹類植物園 企画展「大地が一つ息をすると 竹が一本生まれる」二村有音 /
「他に類を見ない用の美文化 茶杓^{ちやしゃく}」井上雅閑

会期：2023年6月～(木曜・金曜・土曜 10:00~15:00 [最終入場14:30])

場所：富士竹類植物園 研究資料館 [静岡県駿東郡長泉町南一色885] (観覧には入園料が必要)

入園料：大人500円 高校生以下200円

【関連イベント】アーティストトーク+園内ガイドツアー**初回日時：2023年6月17日（土曜日）13時から15時の間 随時****園内ガイドツアーは、13時30分より（40分程度）**

研究資料館内の企画展 展示スペースにて、展示作家自身が作品に込めた想いや制作時のエピソードなどを紹介、作家と共に作品を鑑賞するアーティストトークイベントを、2カ月に1回実施します(2023年度)。また園内散策をさらに楽しめる、竹研究者による園内ガイドツアーも同時に行います。この機会にぜひお出かけください。

【まるで秘境！緑豊かな竹の植物園】

日本唯一の竹の植物園である富士竹類植物園は、様々な種類の竹が見られ、竹の整然とした清々しい雰囲気漂う、まるで秘境のような場所です。竹の魅力があふれる緑豊かな植物園を、より多くの方々に楽しんで頂きたいとの思いから、従来の資料館展示とは異なる展示を企画しました。

**【竹の奥深い魅力を伝えるアート作品】**

1985年の研究資料館開館以来、初めての現代美術作品の展示です。展示アーティストの二村有音は、これまで竹や自然素材を使い、素材を生かしながら生命の素晴らしさへの気づきを作品に表現してきました。生命や自然の尊さを伝え、竹の持つ奥深い世界へと誘う二村の作品は、自然や竹の魅力を感じさせ、園内散策を一層楽しむきっかけとなることでしょう。

【関連イベントやワークショップを随時開催予定】

今回の企画展に合わせて、関連イベントとして2ヶ月に1回アーティストトークを開催するほか、家族連れ向けのパンフレットを新たに作成し、配布しています。今後は子ども向けワークショップも開催し、一般の方々に楽しんで頂ける場所としてイベント等を随時行なっていく予定です。

【作家略歴：二村有音^{にむらゆおん}】

1982年三島市生まれ、2020年より三島市在住。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻修了。個展：2010年「目で、触って」2009年「背骨を擦る」（工房親/東京）等。グループ展：2021年「水の音から生まれるかたち展」（三島市民文化会館B1Fギャラリー/静岡）等多数。受賞歴：2022年WATOWA ART AWARD 2022 審査員賞（久保田賞）受賞 他

**【本企画展のお問合せ先】**二村有音 TEL: 080-5126-0026 / E-mail: nimurayun@gmail.comwebsite: www.yuonnimura.com